

書 評

大田仁史 著

地域リハビリテーション原論

佐伯 覚（産業医科大学リハビリテーション医学講座）

「地域リハビリテーション（以下、地域リハ）」とは種々の定義があるが、自立生活とノーマライゼーションの思想に裏付けられた思想と活動の地域レベルでの展開であり、地域に根ざしたリハビリテーション（Community-Based Rehabilitation；CBR）とも呼ばれる。わが国の少子高齢化社会に対する政策として、平成 12 年度より介護保険が導入されたが、既存の在宅サービスや機能訓練事業のあり方、リハビリテーションの位置付けに関して現場でも混乱が見られている。再浮上したのが、この「地域リハ」の思想活動であるが、にわか専門家が増え、現場での混乱に、より拍車をかけている。「地域リハ」に関する書籍は多数あるが、入門書は背景となる考え方が曖昧で項目の羅列に終始した無味乾燥なものが多く、専門書は調べるにはよいが、哲学的なもの、社会制度論に関するものが多く、通読するには分厚すぎる。

ここに登場したのが、本書である。学生の講義用

ノートをもとに著された「地域リハ」の入門書であり、簡潔かつわかりやすくまとめている。著者はご存知の方も多いと思うが、わが国の「地域リハ」草創期よりこの問題に取り組んでこられた大田教授その人である。著者の長年の経験と実績に裏打ちされた「地域リハ」の思想が本書を貫いており、読んでいて著者の熱意と迫力が伝わってくる。私も引き込まれて、一気に通読してしまった。疾病・障害・加齢によって人間らしさが奪われないようにという著者の考え方（原論）が随所に現れており、本書のタイトルが「概論」でなく「原論」としてあるのもうなずける。入門書としての限界はあるが、各章毎にキーワードと参考文献のリストが提示され、索引もきわめて充実している。これから「地域リハ」を勉強する学生の方々だけでなく、介護保険の現場で悩んでおられる専門職種の方々にもお勧めの一冊である。内容は、読んでからのお楽しみである。

（B5 頁 66 1,000 円＋税 2001 医歯薬出版刊）